

生活を
数える
Vol.2

日本のサラリーマン 夏の包装事情2005

Summer 2005: The Newly Wrapped Japanese Salaryman



簡易包装サラリーマン
Casual Wrapping

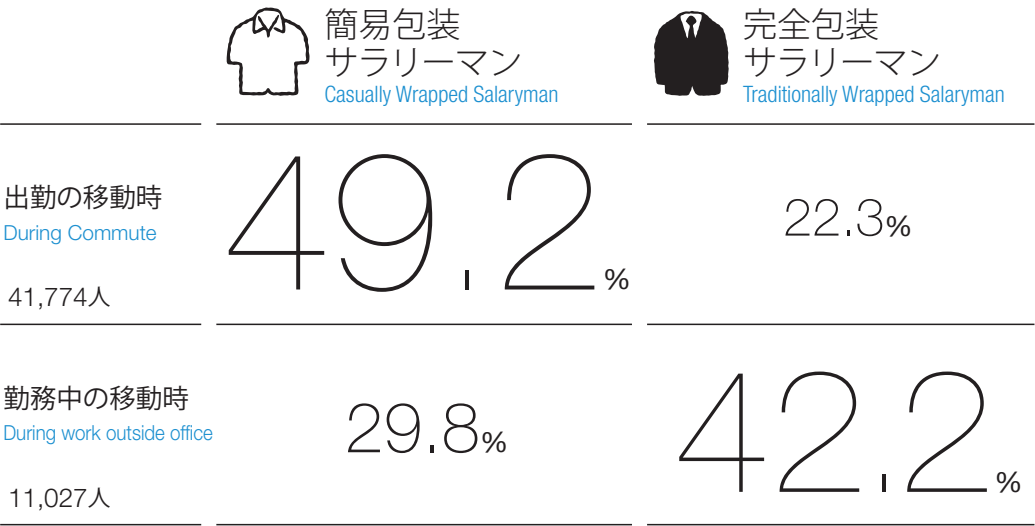


完全包装サラリーマン
Traditional Wrapping

暑いぞ、暑い。
今年も暑い。

暑い、暑い日本の夏。
「クールビズ」なども手伝って、
サラリーマンの夏の服装の選択肢が広がっています。
完全包装から簡易包装まで。
サラリーマンの夏服事情について、
東京・名古屋・大阪で観察による
実態カウント調査・合計約5万人を実施しました。

Oh, Japan's brutally hot summers!
For relief, the trend this year is “cool biz”,
a lighter approach to business wear. With
government encouragement, workers are now
faced with a wide range of styles and decisions
have to be made. We checked out salarymen
50,000 in all in Tokyo, Nagoya, and Osaka
to find out what they're wearing this year.



※カウント区分は、「①ネクタイなし&上着なし(=簡易包装サラリーマン)」、「②ネクタイあり&上着なし」、「③ネクタイなし&上着あり」、「④ネクタイあり&上着あり(=完全包装サラリーマン)」の4タイプ。
上記の数字は、①と④を使用。東京・名古屋・大阪の合計数値。詳細は、「調査概要」を参照。

We divided our sample into four categories: (1) without necktie or jacket (casually wrapped); (2) with necktie, but no jacket; (3) with jacket, but no necktie; (4) with both necktie and jacket (traditionally wrapped).
Figures shown above are the results for (1) and (4), and are the composite percentages from field surveys in Tokyo, Nagoya and Osaka.

東京・名古屋・大阪共通の サラリーマン夏服事情

「若手は完全包装」の法則

- 比較的若い人の方がネクタイをして、上着を手に持っていない [東京・丸の内]
- 若い人ほどネクタイ・上着を着用していた [名古屋・市役所]
- 上着あり、ネクタイありの人かつボタンも（きちんと）とめたホットビズな人は入社直後（23-27才ぐらい）の人が多かった。新入社員は服装に自由を持ってないのかも [大阪・天満橋]

「出勤時間が遅くなるにつれ、簡易包装は増える」の法則

- 時間が早いほど、タイ装着率が高かった（8：30くらいまでの時点では、タイありがタイなしを上回っていたが、9：30ではタイなしの方が100人以上多かった） [東京・大手町]
- 8時から8時半にかけて上着着用者が多かった。
8時半から9時半はクールビズの人が大半だった [大阪・本町]
- 時間が遅くなるにつれ、ノーネクタイの人が増えた [大阪・本町]

「簡易包装になると、ネクタイ以外の紐がぶら下がる」の法則

- 上着なし、ネクタイなしは携帯ストラップを首から下げている人が多かった [東京・新橋]
- ネクタイをしていない人で、携帯の紐を首に掛けて
携帯を胸ポケットに入れている人はたくさんいた [名古屋・市役所]
- 首からネームプレート（証明書みたいなやつ）を下げて、胸のポケットに先を入れている人が多かった。
上着を着ている人で下げている人はあまりいなかった [大阪・淀屋橋]

「簡易包装。脱ぐだけ、外すだけ」の法則

- おしゃれなクールビズを着こなしている人はごく少数。
ネクタイなし・上着なしだと、半袖白シャツ>長袖白シャツ>薄い青のシャツ。
ここまですべてのケースで多数 [東京・霞ヶ関]
- クールビズとはいえ、Yシャツ+スーツ（のズボン）という形。仕事向きの色というのは、クールビズ以前と変化がないようだ [東京・大手町]
- ネクタイなしでもワイシャツにスラックス姿の割合が多い [名古屋・栄]
- クールビズ用のシャツではなく、単にネクタイを外している感じの人が多かった [大阪・淀屋橋]

※コメントは、カウント担当者による観察報告書からの抜粋。観察実感が伝わるよう、彼らの表現に忠実な文字表記をしています。

サラリーマン 夏服実態調査の結果

Salaryman Summer Attire Survey: Detailed Results

出勤の移動時

5割もいる簡易包装出勤サラリーマン！

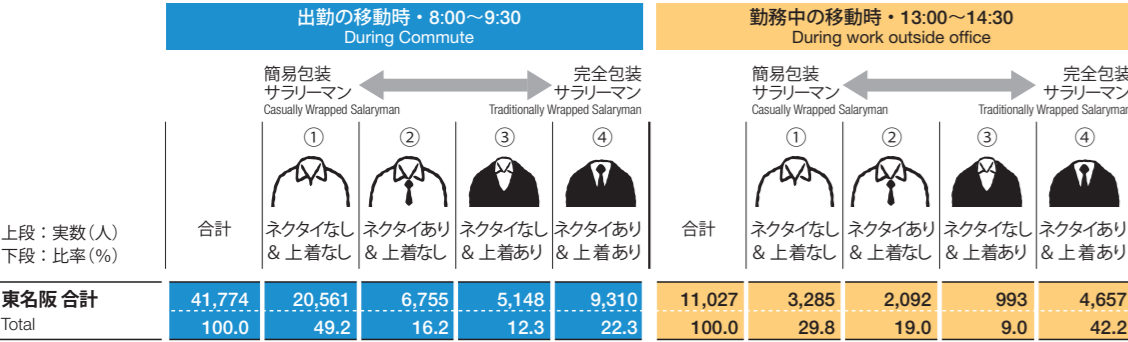
東京・名古屋・大阪とも2人に1人が簡易包装出勤。5人に1人が完全包装出勤。

勤務中の移動時

東京・大阪のビジネスオンタイムは、4割のサラリーマンが完全包装で行動。

お客さまや得意先を訪ねる際は、失礼のない完全包装が多い東京・大阪。

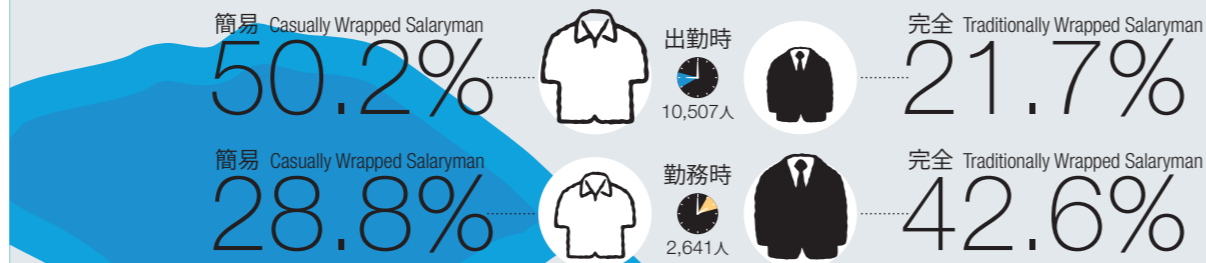
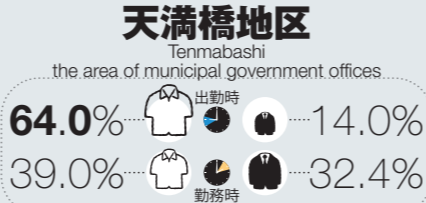
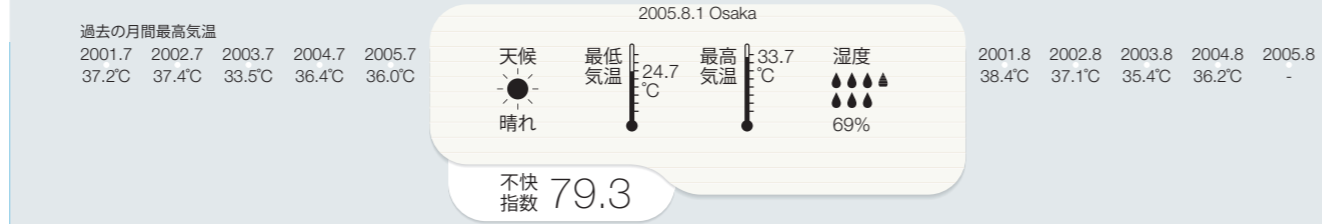
名古屋では、ビジネスオンタイムでの簡易包装が進展か？



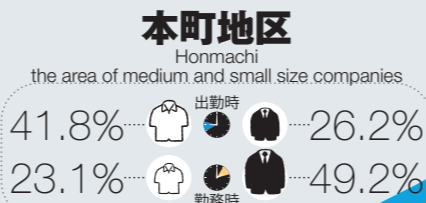
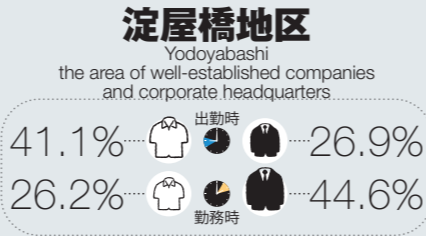
東京 計 Tokyo Total	26,531 100.0	12,948 48.8	4,093 15.4	3,650 13.8	5,840 22.0
霞ヶ関地区 Kasumigaseki	5,155 100.0	3,821 74.1	529 10.3	360 7.0	445 8.6
西新宿地区 Nishi-sinjuku	3,136 100.0	1,420 45.3	796 25.4	260 8.3	660 21.0
丸の内・大手町地区 Marunouchi & Otemachi	14,838 100.0	6,214 41.9	2,132 14.4	2,604 17.5	3,888 26.2
新橋地区 Shinbashi	3,402 100.0	1,493 43.9	636 18.7	426 12.5	847 24.9

名古屋 計 Nagoya Total	4,736 100.0	2,337 49.3	731 15.4	475 10.0	1,193 25.2
市役所地区 Shiyakusho, etc.	1,589 100.0	1,221 76.8	210 13.2	44 2.8	114 7.2
栄地区 Sakae	1,519 100.0	482 31.7	243 16.0	210 13.8	584 38.4
伏見地区 Fushimi	1,628 100.0	634 38.9	278 17.1	221 13.6	495 30.4

大阪 計 Osaka Total	10,507 100.0	5,276 50.2	1,931 18.4	1,023 9.7	2,277 21.7
天満橋地区 Tenmabashi	4,081 100.0	2,611 64.0	684 16.8	216 5.3	570 14.0
淀屋橋地区 Yodoyabashi	3,205 100.0	1,318 41.1	640 20.0	385 12.0	862 26.9
本町地区 Honmachi	3,221 100.0	1,347 41.8	607 18.8	422 13.1	845 26.2



大阪
Osaka



大阪は地味シャツの法則

無地の白いシャツが最も多く、派手な柄の人は2-3人だった(淀屋橋)

政治家の人が見本で着ていたようなおしゃれなシャツの人はほとんどいなかった。せいぜいボタンダウンか、シンプルなシャツ(淀屋橋)

白地のシャツが大半(本町)

大阪はショルダーバッグを斜めがけするの法則

みんな疲れている(眠いのかも)。ショルダーバッグが多い(淀屋橋)

関係ないですが、肩がけできるカバンが多いなと思いました(天満橋)

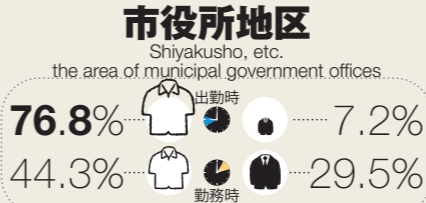
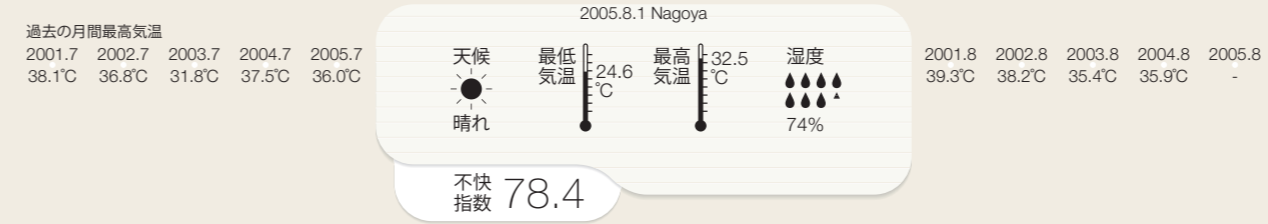
ショルダーバッグなめがけが多い(本町)

大阪は半袖&腕まくりシャツの法則

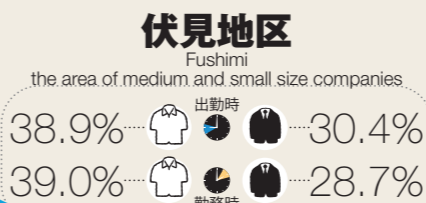
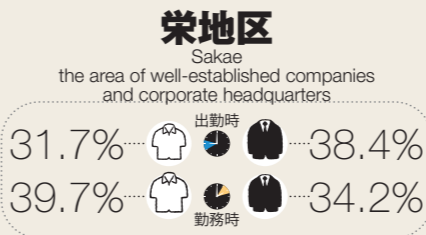
クールビズの中で多数派は“半袖・無地”(天満橋)

半袖が圧倒的に多かった気がしました。長袖の人もいましたが、袖をまくり上げていた人もいました(天満橋)

全体的におしゃれな感じより、暑いから半袖シャツみたいな人が多かった(淀屋橋)



名古屋
Nagoya



名古屋は地味シャツの法則

シャツは無地がほとんどで、柄のあるシャツを着ている人は少数だった(市役所)

明るい色のシャツを着ている人は少なく、青・白系のシャツを着ている人が多かった(市役所)

柄物のシャツを着ている人自体が元々少ない(栄)

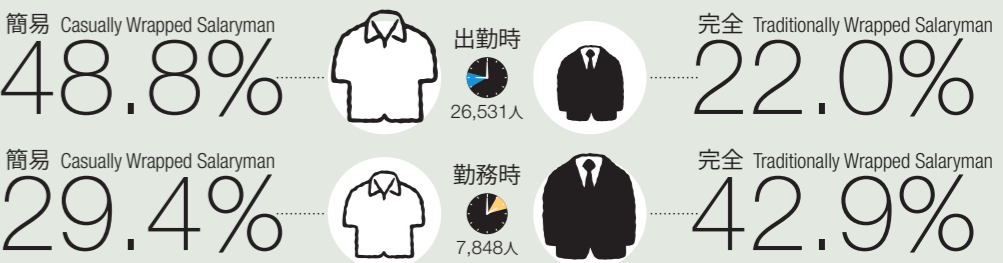
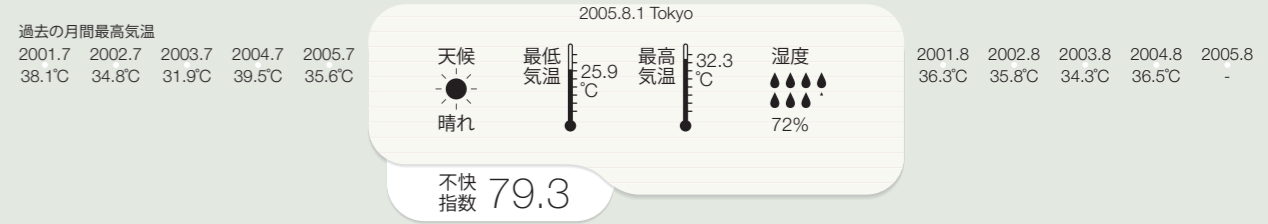
名古屋は若手に加え、年配層も完全包装の法則

「上着あり・ネクタイあり」の人の年齢は比較的高く、身なりは整っていた(市役所)

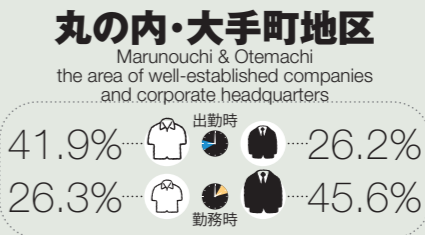
中年(40才以上)の人は上着を着てネクタイもビシッと見ていた(栄)

「上着あり・ネクタイあり」の人は年配層が多かった(伏見)

コメントは、カウント担当者による観察報告書からの抜粋。観察実感が伝わるよう、彼らの表現に忠実な文字表記をしています。



東京
Tokyo



東京は派手シャツの法則

ほとんどの人がノーネクタイだった。シャツの柄や色も多彩だった(霞ヶ関)

シャツの柄や色が様々だった。白のシャツが少なかった。かけると接触する部分が暑くなり、汗が帯の形になってシャツに付着するのを防いでいるためと考えられるカバンは肩から下げられるものが多い(霞ヶ関)

ショルダータイプのバッグをもっている人がすごく多かった(西新宿)

東京はショルダーバッグを肩に掛けるの法則

ショルダーバッグを斜めがけが多い(本町)

ショルダーバッグなめがけが多い(本町)

東京は若手に加え、年配層も完全包装の法則

クールビズの人はほとんどが上着ありでネクタイありの人は、若い人たちがチェックか、縦のストライプだった(丸の内)

年配の人(重役っぽいイメージ)が多い印象を受けた(霞ヶ関)

極端に若い人か、極端に年配の方に、フル装備が多く見られた(西新宿)

上着なし、ネクタイなしの人は、パステルカラーを使ったYシャツを着ている人が多い気がした(例えば、水色、赤白のストライプなど)(大手町)

※気象関連データは、すべて気象庁調べ
※「湿度」は、平均相対湿度

サラリーマン夏服実態調査

調査概要

調査目的

日本の主な官庁街、ビジネス街における、サラリーマンの夏の服装実態を探る。

調査日時

2005年8月1日（月）

出勤の移動時 8：00～9：30

勤務中の移動時 13：00～14：30

調査地点

東京・名古屋・大阪の官庁街とビジネス街

東京4地区11地点：霞ヶ関地区3地点、西新宿地区2地点、丸の内・大手町地区5地点、新橋地区1地点

名古屋3地区5地点：市役所地区1地点、栄地区2地点、伏見地区2地点

大阪3地区6地点：天満橋地区2地点、淀屋橋地区2地点、本町地区2地点

上記地点にある駅改札・通路など

調査手法

「駅改札・通路での観察による実態カウント法」

- ・出勤の移動時（8：00～9：30）と勤務中の移動時（13：00～14：30）に調査地点を通過するサラリーマンを東京・大阪・名古屋の3都市22地点で同日同時刻に一斉カウント。
- ・調査地点1地点につき、カウント担当者を3名配置。
- ・1名が通過者全員をカウント。あとの2名が、「①ネクタイなし&上着なし+②ネクタイあり&上着なし」、「③ネクタイなし&上

着あり+④ネクタイあり&上着あり」というように、服装実態をタイプ別にカウントする。

- ・比較的出入りが多い駅改札、または、駅通路で実施。
- ・鉄道が複数乗り入れている分岐点のような地点では、乗り換え客ではなく、調査対象地区に向かう人の流れを事前に観察・確認し、その人の流れをカウントした。

調査対象

・カウント対象者

非カウント対象者を除く、調査地点の駅改札・通路などを通過する男性サラリーマンと判断できる者。

※男性サラリーマンと判断でき、かつ以下の基準に該当する場合は、カウントに含める。

高齢男性、チノパン・綿パン着用者、柄シャツ着用者、シャツの裾をズボンに入れている場合（ポロシャツ、Tシャツを除く）、ジーンズとTシャツでビジネス用と思われる鞆を持っている場合。

カウント対象については、さらに以下の4タイプに分類して、カウントを行っている。

- ①ネクタイなし&上着なし（簡易包装）
- ②ネクタイあり&上着なし
- ③ネクタイなし&上着あり
- ④ネクタイあり&上着あり（完全包装）

・非カウント対象者

女性、制服着用の男性（学生、作業服など）、明らかに仕事目的の外出ではないと思われる男性（子供、ジーンズとTシャツの男性など）。

生活を数えるシリーズ

博報堂生活総合研究所では、東京圏と阪神圏のアニマルファッションの着用率比較をするために、2005年3月に実態カウント法による調査を実施しました（参考：2005.4.19発行 生活新聞413号「アニマルファッション東阪一致か!？」）。

その結果、私達は、観察によるカウントが生活の実態を浮き彫りにするのに有効な手段であることを確信。同じ手口で今回の調査を実施する運びとなりました。博報堂生活総合研究所独自手口による実態調査は、これからも「生活を数えるシリーズ」として続け、皆さんに結果を報告していきます。

ヒトもモノも
みんな簡易包装に
向かう!?

Wrapping lightly is
the wave of the
future-for both
people and products!